

北船場地区におけるビジター誘致の可能性

阪南大学 国際観光学部

清水ゼミ

奥田輝人 外記優美 鈴木成美

中川光華 山本 歩

目次

1章 研究の背景と目的

2章 事前研究

2-1. 北船場地区の概要

2-2. 北船場の現状

3章 研究内容

3-1. フィールドワーク

3-2. 北船場地区での現地調査

3-3. 北船場地区の関係者に対するヒアリング調査

3-4. 「船場博覧会 2014」の来場者アンケート

3-5. 分析

4章 まとめ

1章 研究の背景と目的

大阪市中央区には、大阪城天守閣や道頓堀といった数多くの観光地が挙げられる。一方、中央区の北船場地区は、歴史的建造物である近代建築やオフィス街のイメージが思い浮かぶ。実際に近代建築が数多くあることから、現在は大阪市 HOPE ゾーン事業の対象エリアとなっている。HOPE ゾーン事業は大阪市都市整備局が担い、大阪の住居地イメージに対する魅力を高める歴史的、文化的な雰囲気にも恵まれた地域で活躍する人々が協議会を形成し、まちづくりに取り組む事業である。他にもまちづくり事業として、大阪市建設局道路部が電柱と電線類を地上から取り除く電線類地中化、都市計画局が道路と歩道の幅が狭いことからオフィスの敷地を後退させ、道幅を確保するセットバックも施工されている。このように、北船場地区の景観整備に力を入れている。しかし、景観が整備され近代建築という観光資源があるにも関わらず、ビジターへの取り組みが十分ではない。

以上の背景から、ハード面は整備されているがソフト面における活用ができていない。目的として、ソフト面に対し現在どのような活用ができるのかを考察する

2章 事前研究

2-1. 北船場地区の概要

(1) 位置

大阪府大阪市中央区に位置する船場は、北は土佐堀川、東は東横堀川、南は長堀通、西は旧西横堀川(現阪神高速道路)に囲まれた東西 1.1km、南北 2.1km の約 230 ヘクタールに及ぶ地区である。さらに船場地区では北船場、中船場、南船場と区分されている。北船場地区は、北は土佐堀川、南は本町通に囲まれた地区である。



図-1 大阪市の地図



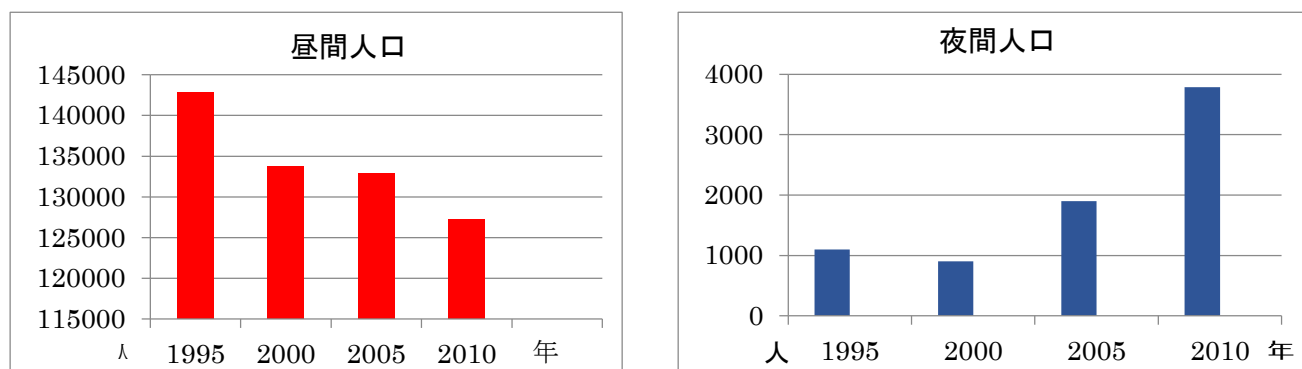
図-2 北船場地区の地図

アクセスは御堂筋線を利用し梅田駅から2分、なんば駅から5分、天王寺駅から12分で北船場地区の最寄り駅である淀屋橋駅に到着する。淀屋橋駅から本町駅まで徒歩14分、堺

筋本町駅まで徒歩 19 分を要するが、飲食店や雑貨店が立ち並ぶため歩きながら楽しむことができる。

(2)人口

北船場地区は 1995 年から昼間人口が年々減少傾向にある。一方、夜間人口は増加傾向にあり、2000 年からマンションの建設ラッシュを迎えたことが、人口増加の大きな要因となっている。



表一 北船場地区における昼間人口と夜間人口

(3)歴史・近代建築

豊臣秀吉が石山本願寺に大坂城を築き、大阪の堺や京都の伏見から商業者を北船場地区へ移住させた。当時、武器や武具、食料、生活用品が大量に必要となったからと考えられている。のちに、船宿、料亭、両替商、呉服屋、金物屋が発展し、国の経済や流通の中心地へと変化を遂げた。北船場地区には国登録有形文化財、国重要文化財に認定されている歴史的建造物が数多く存在する。近代建築とは 1890 年代から 1960 年頃まで建設されたモダニズムの建築である。過去の様式との絶縁と新奇性の追求を特色とし、1920 年代からは特に機能主義や合理主義や経済主義を強調している。



写真一 大阪倶楽部



写真二 芝川ビル

2-2. 北船場の現状

(1)現在のまちの取り組み

現在、北船場地区は行政と地域の両者によって、まちづくりの取り組みを進めている。行政では、大阪市都市整備局、大阪市建設局道路部、都市計画局が中心となっている。大阪市都市整備局は、2008年から船場 HOPE ゾーン事業協議会を設立した。大阪の居住地イメージや魅力を高める歴史的・文化的な雰囲気にも恵まれた地域で活躍する人々が協議会を形成することで、地域と行政が連携し、まちづくりに貢献することが目的である。大阪市建設局道路部は、電柱と電線類を地上から取り除く電線類地中化計画を実行している。都市計画局では、道路と歩道の幅が狭いことからオフィスの敷地を後退させ道幅を確保するセットバック工事を行っている。地域は、船場のまちづくりに対し自主的に取り組む25の活動団体が、船場げんきの会を構成している。歴史や文化、まちづくり、ビジネスといった幅広い分野において、10年以上にわたり北船場地区の魅力や情報を発信し、活動を行っている。北船場地区では、民間団体が活発に活動を行っていることが特徴的である。

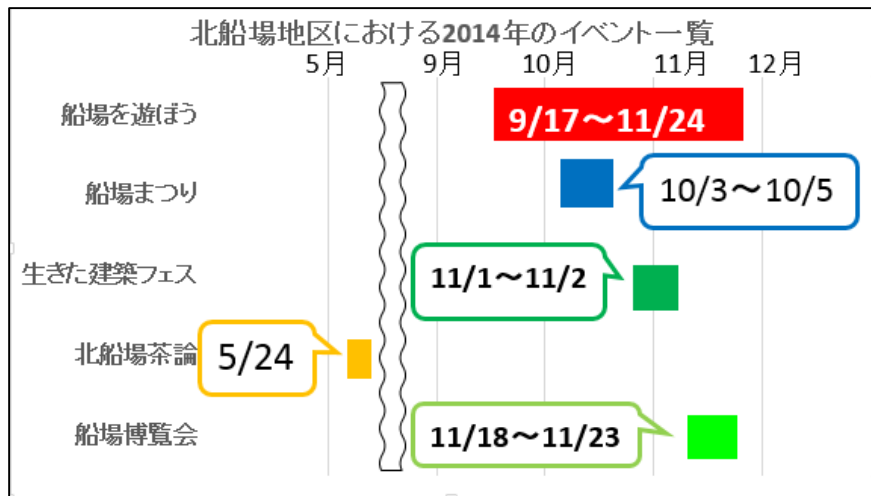
(2) イベント

北船場地区には9月から11月にかけてイベントが集中している。北船場地区の魅力である近代建築をテーマにした「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2014」(以下から生きた建築フェス)は2014年から歴史や文化、地域住民の暮らしぶりを現在に受け継ぐことが目的として開催された。大阪市が「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」として選定している建築物を公開すること、建物内を見学できる建物について解説するツアーや講演会などもプログラムに組み込まれている。北船場地区の飲食店を利用し食べ歩きをする「北船場茶論」は2012年から開催され、5枚綴りのチケットを購入し自由に108店舗の飲食店を選び食事や飲酒を楽しむことができる。言葉や歴史などあらゆる視点から北船場地区の魅力を伝える「船場博覧会」は2010年から開催され、北船場地区の町内会や大阪市立大学都市研究プラザや船場地区 HOPE ゾーン事業など主催は拡大している。プログラムは、展示やツアーやイベントやコンサートと充実している。近年に初年度を向かえ開催されたイベントが数多く、北船場地区をフィールドにテーマは多様である。



写真－3 「船場博覧会 2014」 吉兆お餅つきの様子

写真－4 「船場博覧会 2014」
辰野ひらのまちギャラリーの様子



表ー 2 北船場地区における 2014 年のイベント一覧（資料より作成）

3 章 研究内容

この章では、北船場地区での現地調査、ヒアリング調査、アンケート調査を行った。

3-1. フィールドワーク

新たなビジターを誘致するには、まず北船場地区の魅力を発見することが必要だと考えた。そのため、各回に目的を定め計4回のフィールドワークを実施した。フィールドワーク結果から、北船場地区における新たなイメージや魅力をイベントに活用する。

① 北船場地区のハード面に関するフィールド調査

大阪市建設局と観光局の五十嵐氏、小松氏、西岡氏、夏秋氏と共に北船場地区の odona 周辺、適塾と愛珠幼稚園周辺、芝川ビル周辺の3エリアを見学した。その際に、北船場地区のセットバックや電線地中化をはじめとするハード面の取り組みと、大阪市が取り組む事業について話を聞いた。

② 北船場地区におけるイベントのフィールドワーク

北船場地区はイベントを通じ、どのような来訪者を誘致できるのかを知るため、2014年11月18日から23日まで計6日間開催している「船場博覧会 2014」に参加した。北船場地区のさまざまな魅力を取り上げて展示を行っている辰野ひらのまちギャラリー、北船場地区に店を構える老舗料亭吉兆によるお餅つきイベントを視察した。辰野ひらのまちギャラリーは、初日にも関わらず来場者は昨年よりも上回っていると、大阪市都市整備局の津村氏から聞いた。老舗料亭吉兆によるお餅つきでは、会社員やOLの姿が目立っていた。

3-2. 北船場地区での現地調査

従来のオフィスのイメージからイベントを通し、北船場地区の新たなイメージを確立することが必要だと考えた。そのため、2014年10月28日(火)、12月6日(土)の2回にわたり odona 周辺、適塾と愛珠幼稚園周辺、芝川ビル周辺の3エリアを平日の昼と夜、休日の昼と夜の4パターンに区別し調査を行った

	昼	夜
平日	オフィス周辺にはサラリーマン、OLが多い。	居酒屋はサラリーマン・OLが多い。
	近代建築の中、周囲に人がいなかった。	写真が撮りづらい。
	ランチをする人で飲食店が賑わっていた。	飲食店に光が付き、通りが賑やかになっていた。
	ケータリングカーで昼食販売を行っていた。	
休日	女性や家族連れが目立った。	人が少なく、暗いため女性は不安になる。
	平日に比べ、芝川ビルは出入りが多かった。	平日の昼夜・休日の昼に比べ、閑散としていた。
	平日の昼に比べ、人と車の量が少なかった。	大通りは人が多い。
共通点	まちなみがきれいに見えた。	御堂筋のイルミネーションがきれいだった。
		証明があまり設置されてなく、夜は特に暗い。

表-3 平日と休日のイメージ (筆者作成)

平日の昼と夜に、飲食店のイメージが強いと感じたので、実際に店舗を地図に記した。



図-3 飲食店マップ (筆者作成)

3-3. 北船場地区の関係者に対するヒアリング調査

北船場地区のまちづくりに関する三者の視点からヒアリング調査を実施した。大阪市都市整備局企画部住宅政策課の津村氏から行政のHOPEゾーン事業に対する視点、船場げんきの会の日比氏から地域で組織された視点、船場地区HOPEゾーン協議会の別所氏から行政が管轄をもつ地域組織の視点をもつ三者から地域活性化を行うためにそれぞれ話を聞いた。

北船場地区の過去から現在、現在から将来を調査する。そして、北船場地区が抱える課題点を挙げる。

《質問内容》

- ・現在の北船場をどう思うか。
- ・現在の北船場に不足していることがあるか。
- ・ビジターが訪れるまちにしたいか。
- ・これからの北船場が目指すものは何か。
また、目指しているものにビジターが参加できることは可能か。
- ・朝日新聞(2014年10月8日付)の記事でシャンゼリゼ通りを理想としていると掲載されているが、実際はどう思うか。

① 行政の視点

大阪市都市整備局企画部住宅政策課 津村氏

2015年1月9日(金)

現在、船場地域では、歴史や文化、伝統を守るために多くの方が活動され、イベントを通じて発信に取り組んでいるが、当時を知る方がご高齢になるなど、若い世代への継承が課題だと感じる。近年、船場では高層マンションの建設が進んで住む方が増え、カフェ等のお店もできて、若者や家族連れが歩く姿を目にする機会が増えた。週末なども船場で街歩きする方を見かけることが多いが、船場はもっと多くの方が来訪するポテンシャルがあると思う。今後は、近代建築や木造建築、新しいビルなど新旧の建物がうまく共存している船場ならではの街の魅力をより一層引き出し、船場に住みたい・住み続けたい方を増やしながら、若者・家族連れ等のビジターが歩いて楽しめるまちづくりに取り組んでいきたいという。そのためには、船場のまちづくりに積極的に参加いただける、特に若い世代の人材の発掘や育成が必要であり、例えば船場博覧会等の地域イベントで学生が企画したプログラム等を通じて、船場を知らない若い方等にも魅力を感じてもらえる機会を増やすことなどが必要ではないか、という意向であった。

② 地域で組織された視点

船場げんきの会 副代表世話人 日比氏

2015年1月9日(金)

現在の北船場地区は、すでにイベントを通じて地域活性化を図っている。新たなビルが建設され、まちの雰囲気が変化する一方、「生きた建築フェス」によりまちあるきが増加している。地域住民が要求していることに対し、時間をかけて対応することが必要であると考えている。課題として、北船場地区の店舗と連携して案内所を設置し、イベントの情報発信をできる環境を考えなければならない。ビジターの訪れるまちにしたいが、資金を投資するまではできない。若者のビジターを増加させ、北船場地区の企業との交流、関わりを含めインターンシップなどの「学びの場」にすることを望んでいる。

③ 行政が管轄をもつ地域組織の視点

少彦名神社 宮司・船場地区 HOPE ゾーン協議会 事務局長 別所氏

2015年1月13日(火)

現在の北船場地区は年々人口が増加傾向にあり、特に子供の数に変化がある。これを裏付けるように、今まで一学年につきクラスだった地域の小学校が二クラスになった。さらに、別所氏が宮司を務める少彦名神社では、例年以上に新年の参拝客が訪れた。課題点として、タイや台湾からのビジターが増えていること、外国語表記の案内板が少ないこと、外国人のビジターが軽食を取ることができ、かつ地域住民のコミュニケーションを図る公園が挙げられる。望むビジターのイメージは、少人数のグループや家族連れである。御堂筋通りはシャンゼリゼ通りをイメージしているといわれているが、あくまでも理想であり、無理に真似をする必要はない。別所氏は北浜の水辺を利用したイベントを充実させたいと話した。

3-4. 「船場博覧会 2014」の来場者アンケート

北船場地区でイベントを提案しビジターを誘致するため、現在の段階で行われているイベントのアンケートを大阪市都市整備局の江藤氏に許可を得て引用した。来場者の年代、性別、関心のあるプログラムの質問項目に対し、回答からイベント内で来場者が望んでいることを集計する。イベント期間中にフィールドワークを行った「船場博覧会 2014」が開催された6日間のアンケート結果を基にする。

「船場博覧会 2014」は2010年から開催され、北船場地区の言葉や歴史などあらゆる視点から北船場の魅力を伝えるイベントである。2014年11月18日から23日に開催された「船場博覧会 2014」では、メインギャラリーやイベントの一つであるツアーでアンケート調査が実施されていた。

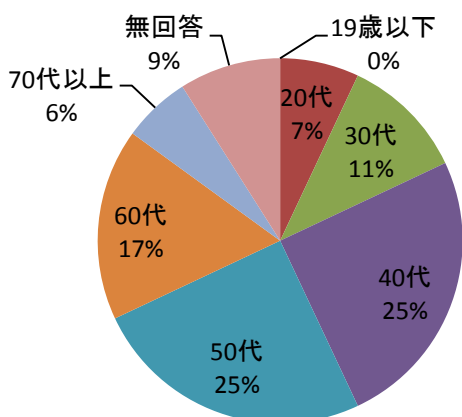


表-4 「船場博覧会 2014」来場者年齢層

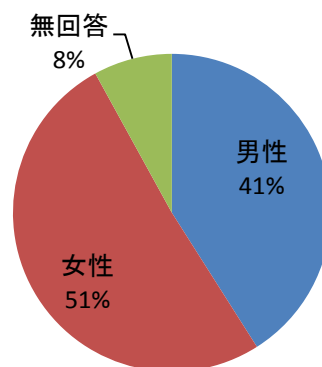
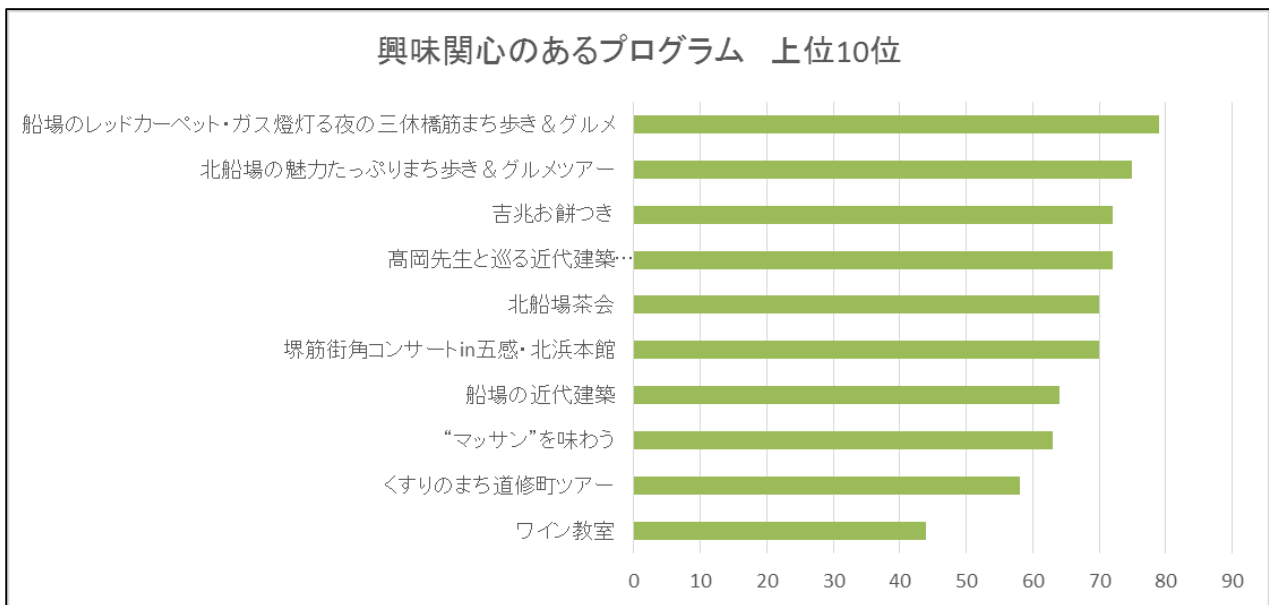


表-5 「船場博覧会 2014」来場者性別



表－6 「船場博覧会 2014」で興味関心のあるプログラム上位 10 位

3－5. 分析

3－2の北船場地区での現地調査から、飲食店が数多くあることで新たに「食」というイメージが思い浮かぶ。3－3の北船場地区の関係者に対するヒアリング調査から三者の共通点として、ビジターを北船場地区へ誘致すること、海外からのビジターが増加傾向にあること、ビジターだけでなく地域住民も増加していることである。三者が考える課題点として、北船場地区の魅力を知ってもらう機会が少ないことである。3－4の「船場博覧会 2014」の来場者アンケートにより、20代から30代のビジターが少ないため新たなビジター層として呼び込むことが可能である。そして、興味関心のあるプログラムでは10項目中6項目は「食」に関する内容が選ばれていた。

分析から、北船場地区に対し「食」をテーマにしたバルを提案する。北船場地区には、近代建築やオフィス街といった新旧の建物が交じり合うまちなみがあるように、飲食店にも老舗や新規店舗といった新旧のものも多くある。「食」をテーマにしたイベントを通して、新たなイメージを確立する。船場の頭文字「S」と Special の「S」を掛け合わせて、イベント名は「昨日まで知らなかったS級グルメ」。普段入りにくい飲食店にも足を運び、バル開催期間中しか食べることができない料理の提供により、非日常な時間を過ごしてもらう。開催日は平日に設定し、学校終わりの若者をターゲットとする。他にも、オフィス街の会社員の相乗効果も予測できる。バルの参加者には新旧のS級グルメを存分に楽しみ、店舗移動の際には近代建築を見てもらう。他にも、食事をする際に参加者同士の交流が図りやすいことでコミュニティが形成され、再び北船場地区を訪れたいと思うリピーターの獲得も可能である。

4章 まとめ

今回の研究で、北船場地区で何度もフィールドワークを行い、近代建築などの観光資源で溢れている以外にどのようなものがあるのかを知り、何が課題であるのか、見出すことが困難であった。フィールドワークで「船場博覧会 2014」に参加し、ヒアリング調査では三者の意見を聞くことなど、研究の調査に協力して下さった方々に感謝するとともに、北船場地区に求められていることを理解できた。以前からの住民と2000年からのマンション建設ラッシュによる新たな住民が、今後の北船場地区を守っていく人材として関わることも重要である。地域住民とビジターの両者が楽しんでもらう工夫が必要であり、新旧の魅力が共存する北船場地区を後世にも継承することが望まれる。

参考文献・出典

図－1 大阪市の地図 (<http://tizuso.web.fc2.com/osakacityousonmei.html>)

図－2 北船場地区の地図 (<http://tizuso.web.fc2.com/osakacityousonmei.html>)

写真－1 大阪倶楽部公式サイトより (<http://osaka-club.or.jp/>)

写真－2 芝川ビル公式サイトより (<http://shibakawa-bld.net/about/gallery.html>)

写真－4 右から1枚目 「船場博覧会」 ツイッターより

(<https://twitter.com/sembaexpo/media>)

表－1 『今日からあなたも船場人より』作成

表－4・表－5・表－6 大阪市都市整備局によるアンケート結果より作成

デジタル大辞泉 (<https://kotobank.jp/dictionary/daijisen/>)